

リハビリテーション科学学位プログラム (博士後期課程)

Doctoral Program in Rehabilitation Science

授与する学位の名称	博士(リハビリテーション科学) [Doctor of Philosophy in Rehabilitation Science]	
人材養成目的	リハビリテーション関係の研究者、専門職業人に対して、リハビリテーションの包括的基盤教育を行うとともに、国際的・学際的な研究成果と方法論を習得し、他職種と連携して、職場や社会での諸課題について、科学的・実践的・開発的に解決し、社会に貢献する学際的な高度専門職業人や大学教員(研究者)を養成する。	
養成する人材像	現職社会人が職場において遭遇し、かつ早急にその解決が求められている諸問題について、広い視野での対応と発展に必要な、総合的・包括的リハビリテーションに関する総合的な能力を有する人材を養成する。とくに、総合的・包括的リハビリテーション領域の中でも現場の課題の科学的解決に関わる実践的な研究能力・開発能力の高い高度専門職業人や大学教員などを養成する。	
修了後の進路	本プログラム在学中の人材は大学教員や研究職として教育・研究分野で活躍している人も多い。本プログラム修了後の博士人材は、大学教員や研究職として教育・研究分野に転じる人も少なくないが、職場において指導的立場で活躍する人も多い。医療・保健機関、社会福祉施設、学校教育関係などで、高度専門職職業人として活躍することが期待できる。	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の創成力: 未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	① 新たな知の創成といえる研究成果等があるか ② 人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか	リハビリテーション科学基礎論、博士論文作成、学会発表など
2. マネジメント能力: 俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	① 重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ② 専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか	リハビリテーション科学演習 I、達成度自己点検など
3. コミュニケーション能力: 学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力	① 異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ② 専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えるときともに、質問に的確に答えることができるか	リハビリテーション科学特論 I、学会発表など
4. リーダーシップ力: リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	① 研究的に魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ② 目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力があるか	リハビリテーション科学基礎論、職業リハビリテーション特論、TA(大学院セミナー等)経験、プロジェクトの参加経験など
5. 国際性: 国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ② 国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか	リハビリテーション科学演習 II、国外での活動経験、外国人(留学生を含む)との共同研究、TOEIC 得点、国際会議発表、英語論文など
6. 研究力: リハビリテーション分野における最新の専門知識に基づいて先端的な研究課題を設定し、自立して研究計画を遂行できる能力	① リハビリテーションに関する先端的な研究課題を設定し、その計画を他者に適切に伝えることができるか ② リハビリテーションに関する先端的な研究成果を、国内外の専門誌に掲載することができるか ③ リハビリテーションに関する先端的な博士論文を完成させ、その成果を適切に発表することができるか	リハビリテーション科学特論 I、国内外の専門領域での論文発表、博士論文作成など
7. 専門知識: リハビリテーション分野における先端的かつ高度な専門知識と運用能力	リハビリテーションに関する先端的な高度な専門的知識を習得し、自らも発信できる能力を得られるか	リハビリテーション科学特別演習 I、各専門的な学会が開催する研究会への参加や研修会での講師など
8. 倫理観: リハビリテーション分野の研究者または高度専門職業人にふさわしい倫理観と倫理的知識、および専攻する特定の分野に関する深い倫理的知識	リハビリテーションに関する高度な研究能力、倫理観および深い倫理的知識を得られているか	リハビリテーション科学基礎論、APRIN など関連する内容の e-learning の受講など

学位論文に係る評価の基準	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 関連分野の国内外の研究動向及び先行研究の把握に基づいて、リハビリテーション科学分野における当該研究の意義や位置づけが明確に述べられていること。 2. リハビリテーション科学分野の国内外の発展に寄与するオリジナルな研究成果が学術論文として発表するのに相応しい量含まれていること。 3. 研究公正についての十分な知識に基づき、研究結果の信頼性が十分に検証されていること。 4. 研究結果に対する考察が妥当であるとともに、結論が客観的な証拠に基づいていること。 5. 研究の背景、目的、方法、結果、考察、結論等がリハビリテーション科学分野の博士論文に相応しい形式でまとめてあること。 <p>学位論文が満たすべき水準：主指導・副指導教員のいずれもが、上記の1～5を満たしていると判断できること 審査委員の体制：主指導1名、副指導3名 審査方法：博士論文、論文発表会、口頭試問により主指導・副指導教員が総合的に判断 審査項目：：博士論文、論文発表会、口頭試問</p>	
カリキュラム・ポリシー	
<p>リハビリテーションの4分野（医学的リハビリテーション、特別支援教育、社会リハビリテーション、職業リハビリテーション）にわたる高度な研究力、専門知識、倫理観とともに、学際的なリハビリテーションに基盤の置いた学際的かつ高度専門職業人とリハビリテーション専門職養成校等の高等教育教員等を育成するための汎用的知識・能力を養う教育・研究指導を行う。現職社会人に最適化したコースワーク・リサーチワーク複合型のカリキュラム・ポリシーに基づき、学位取得に至るまでの論文作成指導や学位論文審査などを柔軟かつ有機的に関連づけた指導を行う。</p>	
教育課程の編成方針	<p>学生の専門分野を軸として、関連するリハビリテーション分野の基礎的素養や広い視野、汎用的知識・能力の涵養に資するようリハビリテーション科学基礎論およびリハビリテーション科学演習、リハビリテーション科学特論を必修とするとともに、より広い関連分野についての知見の修得に資するよう、学院共通専門基盤科目から1単位を履修することを推奨する。具体的な履修科目や副指導体制の配置は個々の学生の研究計画やキャリアプラン等を踏まえて決定する。</p> <p>原則として通算3年以上在籍する。リハビリテーション科学の概念的理解と学問的基礎を構築する必修科目6単位の履修と研究課題に即した選択性に富む選択科目4単位以上を履修する。指導教員および副指導教員が指定する科目を選択科目から4単位以上を履修し、博士論文作成のために必要な研究指導を受け、研修を実施すること。博士論文の予備審査および最終試験に合格する。博士論文審査においては、科学的論理性のみではなく、実践に即した課題設定や現場における有用性・有効性・新規性などを積極的に評価するものとする。最終試験に合格した者に、「博士（リハビリテーション科学）」の学位が授与される。</p>
学修の方法・プロセス	<p>1年次に研究計画発表会、博士論文作成に必要な文献研究発表会および文献リストの提出、2年次に経過報告会（1）、中間発表会、3年次に経過報告会（2）、に博士論文研究の進捗状況の報告を行う。あわせて、原則として各指導教員のゼミに参加するとともに、各報告会後には副指導教員の指導を仰ぐこととする。</p>
学修成果の評価	<p>1年次の研究計画発表会、文献研究発表会、2年次に経過報告会（1）、中間発表会、3年次に経過報告会（2）は、いずれも報告および報告後のレポート提出により該当する科目の単位認定を行う。博士論文の評価の観点、リハビリテーション分野にふさわしい研究のオリジナリティ、論文全体の構成、分析の適切性、考察・結論の妥当性、論理の一貫性などについて、教員3名による予備審査としての査読をへて、教員4名による本審査により総合的に評価する。なお、博士論文には、主たる論文として査読付き学術論文を2編以上含んでいることを条件にしている。</p>
アドミッション・ポリシー	
求める人材	<p>本プログラムでは、現職社会人の立場と経験を活かしつつ、リハビリテーション科学に関わる実践的課題について、リハビリテーション科学の技術を駆使して主体的かつ意欲的に研究的探求を行うことができる人材を育成することを目的としている。特に、医療・保健機関、福祉施設・学校教育関係（特別支援教育を含む）、リハビリテーション専門職養成校、職業支援センターや障害者雇用企業、官公庁・行政機関などでの職務経験を有し、新しい研究創出と、実践臨床に高い関心を有する者が望まれる。</p>
入学者選抜方針	<p>原則として入学までに概ね2年以上の有職経験を有することを条件に、入学候補者の選抜は、外国語試験、口述試験及びその他の出願書類の審査結果を総合的に判定して行う。</p>